

BASE Vol.100

実践的基礎知識 ポートフォリオ特性の確認編(1)
＜分散投資の効果とポイント＞

2019/09/25

分散投資の効果

分散投資とは、文字通り複数の投資対象に分散して投資することを言います。効果的な分散投資をすることで、主に①リスク要因を分散できる、②値動きを抑えることができる、③リスクとリターンバランスが良くなる、の3つの効果が期待できます。①の効果は分散する数が多いほどその効果が高まることが期待できますが、②の効果は「資産の数」よりも「値動きの向き」が重要です。異なる動きをするもの同士を組み合わせると、全体の値動きを抑えることができます。また、分散投資を考える上では、「向き」だけでなく、標準偏差で確認できる値動きの「大きさ」も併せて考えましょう。相関係数も標準偏差も十分に長い期間のデータを使用することが大切です。

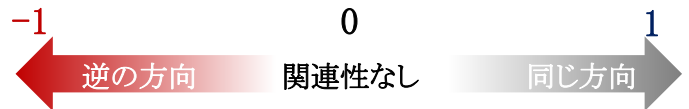
分散投資のポイント

- ①リスク要因を分散できる
- ②値動きを抑えることができる
- ③リスクとリターンバランスが良くなる

値動きの「向き」: 相関係数
値動きの「大きさ」: 標準偏差

値動きの「向き」: 相関係数

「相関係数」とは、2つのグループの数字が同じ方向に動く度合いを1～-1の間の数字で表すものです。相関係数が1に近いほど2つのグループの数字は同じ方向に、相関係数が0に近いほど関連性がなくなり、相関係数が-1に近づくほど逆方向に動くことを示します。

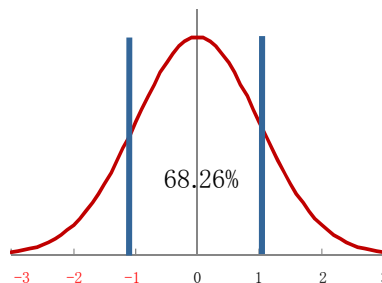


実践的基礎知識 ポートフォリオ特性の確認編(1)
 <分散投資の効果とポイント>

値動きの「大きさ」:標準偏差

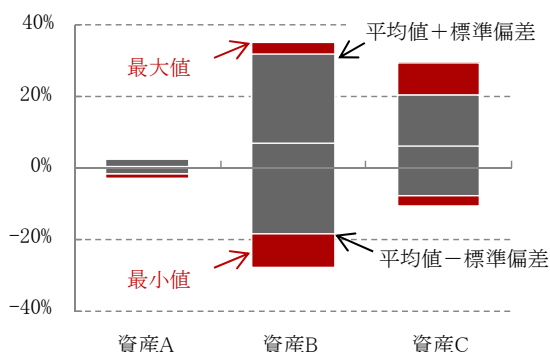
標準偏差は、「バラつきの大きさ」を表す数字で、リスクの大きさを数値化するものです。「極端なケースを除き、だいたいこのくらいの範囲の中に収まる」という範囲を教えてください。いわゆる「リスク」の値には、平均からの乖離を示すものとして標準偏差が用いられ、収益率のバラつきがどの程度か示してくれます(図1, 2)。

図1:正規分布



1標準偏差では68.26%のデータが「平均値±標準偏差」の範囲に収まります
 2標準偏差では95.44%のデータが「平均値±標準偏差×2」の範囲に収まります

図2:各資産の収益率最大値・平均値・最小値と標準偏差



平均が近い資産BとCは標準偏差に大きな差があり、Bは標準偏差が大きいのでグレーの範囲が広く、平均から大きくかけ離れたところまでデータが散らばっていることを示します。

当資料をご利用にあたっての注意事項等

- 当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。
- 運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。
- 当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。
- 当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。
- 投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。